

会員だより

東京見物でお友達に

数年前、久しぶりで東京見物にいきました。一日目は、上野の国立博物館と築地本願寺を見学し。二日目は都内観光のはとバスに乗って浅草の観音様、明治神宮、お台場、東京タワーとめぐり、お昼は都庁の近くの、ビルの51階で中華料理を頂きました。三日目はまた観光バスで、国会議事堂と靖国神社へ行きました。前に何回か行ったところもありましたが、おのぼりさんよろしく観光し、それなりに新鮮で一人旅も楽しく過ごせました。

そのバスで一つの出会いがありました。隣に座られた男性は、70歳くらいとお見受けしましたが、第一印象はとても清潔な感じで、優しい方のように思いました。私に話しかけてこられて、昨日はスカイツリーの近くへ泊まったということ、ホテルの窓から見て描いたのだというスカイツリーのスケッチを見せてくださいました。私は驚きました。印刷かと思うくらい繊細なスケッチに淡い色彩のスカイツリーが描かれていました。「これ、お描きになったのですか」と驚く私に「私は

スケッチが趣味で毎年カレンダーを作ってみなさんに送っているのです」と言われました。「よかったら送りますよ」と言われあつかましく「お願いします」と言っていました。

奥様と親戚の女性のかたと三人のご旅行だそうでした。観光バスでの短い出会いでしたが、名刺を交換して別れました。そして年末、本当にカレンダーが送られて来ました。



カレンダーの絵

奈良県にお住まいで、おうちの近くの山や森、田舎の建物や、道など心温まるタッチで描かれています。絵心のない私ですが、この優しい風景画はほんとに癒されます。そして次の年も、その次の年も送ってくださいっています。

旅行から帰って友達に「東京で男性のお友達が出来たよ」というと私の人見知りを知っている友達は一斉に「えっ」とびっくりしました。が、「ご心配なくその方は奥様とごいっしょよ



山裾に広がる美しい村

した」と落ちをつけて笑わせました。一度家へ遊びに来てくださいと何度も誘ってくださいました。

久しぶりの再会の挨拶もそこそこに車に乗せてもらい出発しました。車は市街地を抜けてだんだん山の中へ入っていきます。着いたところは、ほんとに山あいと言っている静かな集落でした。立派な門構えのお家で庭に蠟梅が満開の花を付けていました。お話を伺うと享保まで遡



落ち着いた瓦越しの山並み

れるお家だそうで、「鑑定

団」に出てきそうな立派な屏風や、お花見のときの、蒔絵のお弁当箱など珍しいお品をたくさん拝見しました。また家で取れたという野菜や、おいしいお料理をいただき、楽しいひと時を過ごさせていただきました。その後は季節の挨拶くらいですが、お付き合いを続けています。

記・写真 牧戸富美子



芝生の下に静かに眠る

「西行も樹木葬を希望したのかな」

「願わくば花の下にて春死なむその如月の望月の頃」とは西行の歌。実際に西行はどんな死に方をしたのだろうか。昨年5月5日に姪達から自分達の両親の樹木葬を京都建仁寺の奥まった塔頭の片隅の高台でした。今年も同じ日、姪達とその場所を訪れた際、西行の事が頭に浮かんだ。帰って調べてみると、南河内の弘川寺で、



6~7月池の周りの半夏生見学会が有料で催される

この歌を詠んだ時と同じ頃の二月の満月の日に没したとある。しかし歌を詠んだのが2月で、望月(満月)から推測して、桜ではなく梅ではないかと言う説があるとか。今は千五百本の桜に囲まれているらしい。とにかく西行の願いは桜の樹木葬としたのは後世の人であって、最初に現代の商法に乗せたのは1999年東北のお寺らしい。西行が東北を旅したので勿論この寺は桜の樹木葬であろう。先に述べた建仁寺のそれは大きな銀杏の樹に守られて、今年も静寂そのものであった。特定の宗教を必然と考えない人達の安らぎの場である。今回訪れてみると、現代の世相を反映しているのか、大きな墓標とさらに追加された墓碑にも彫られた新しい名前がこの1年で随分増えていた。埋葬され

四季彩

ヤグルマギク

私は通常矢車草とよぶが、ユキノシタ科のヤグルマソウの同名があるのでキク科のヤグルマギクと呼ぶのが良いらしい。野草のような雰囲気があり、かわいらしい花である。草丈は30~1mで、開花期4~5月、花色は青・紫・紅・ピンクなど、以下HPをご覧ください。記 上村サト子



HPでは四季の花が楽しめます！！